

# 2023年度 自己評価書

法人名	学校法人 藤学園
学校名	小樽藤幼稚園

(教育方針)

「ひとりひとりの 咲くべき花を 咲かせよう

～ うつくしく やさしく しなやかに ～」

## 1 本年度の重点目標

- 1 キリスト教の人間観に基づき、一人ひとりの子供はかけがえのない神の似姿であることから、人格の基礎作りに重点を置いて教育を行います。
- 2 人間を超えた御者に対する畏敬の念・他人を思いやる優しい心・許す心・感謝する心を育てます。
- 3 一人ひとりの持っている可能性を開花させ、調和のとれた豊かな人格の成長を援助します。

## 2 評価方法

評価方法は、目的達成状況などに応じ7段階とする

評価方法	A	十分達成されている。
	A-	概ね達成されたが、工夫や改善する必要がある。
	B+	若干上回って達成されている。
	B	達成されている。
	B-	概ね達成されているが、工夫や改善する必要がある。
	C	取り組まれているが、成果が十分でない。
	D	取り組みが不十分である。

## 3 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価	
		達成状況	実施状況と改善方策
教育課程・指導	1 建学の精神であるキリスト教や教育目標・方針について、教職員と定期的な話し合いなどを通じて理解を深めている。 2 幼稚園教育要領を理解	A-	建学の精神に基づいた教育目標を理解した上で、教育課程・指導計画を作成している。 日々の保育での振り返りの中で、補足、改善、継続をしながら、食育体験や地域との関りを保育に取り込む機会が増えた。 年間行事に関しては、今年度は海遠足やお泊り会を復活させることもできた。祖父母の会で

	<p>し、園児の特性に応じ、又、主体的な活動を尊重するとともに遊びを通して総合的な指導を行うなど、発達状況に即した指導を行っている。</p> <p>3 年間の行事予定や指導計画などは、教職員と協力し、工夫を凝らし策定している。</p>		<p>交流型での実施に、喜びの声が多かった。感染症対策や開催場所の収容人数を考慮した人数制限は継続しつつ、2 部制で実施し成長の連続性を観ていただいた。</p>
保健管理	<p>1 学校保健計画を作成し、家庭や保健・医療機関と連携のうえ実施している。</p> <p>2 日常の健康観察や疾病予防の取組みのほか、健康診断を定期的に行っている。</p>	A	<p>保護者や医療機関と連絡を取りながら保健計画を作成し、定期健康診断を実施した。</p> <p>今年度も継続的な様々な感染症への取り組みを行った。感染対策をしつつも、保育の継続も心掛けた。</p>
安全管理	<p>1 安全計画や防災計画を策定し、定期的に避難訓練などを実施し、安全対応能力の向上を図っている。</p> <p>2 危機管理マニュアルを作成し、教職員が消防機器の安全点検や避難路確保などを行っている。</p>	A	<p>今年度も年2回の避難訓練の実施をした。次年度は認定こども園の移行のため、月1回の訓練が必要になる。不審者訓練など、いかなる時にも対応できるような対策を積み重ねていきたい。国内の保育施設でのバス事故後の対応として、バス内の安全装置を設置し、登園確認、バスの乗車・降車確認の記入が定着した。</p>
特別支援教育	<p>家庭と連携を図るとともに園内支援体制の下、園児ごとの指導計画を作成している。</p>	A-	<p>園児一人ひとりの状況を把握し、保護者の理解や全教職員による共通理解のもと、指導計画に沿って教育活動を実施している。</p> <p>地域の関係者との連携は取れているが、子どもの困り感と保護者の困り感のずれを埋めていく働きかけには課題が残っている。</p>
組織運営	<p>1 クラス担任や主任を配置するなどし、教職員相互の連携協力の下、園の適正・円滑な運営に努めている。</p>	A	<p>園の教育方針のもと、教職員が適時話し合いや相談を重ね、共通認識を持つとともにコミュニケーションを図りながら、保護者などの理解と協力を得て、円滑な運営に努めている。</p> <p>個人情報の取り扱いには細心の注意を払い、</p>

	<p>2 園児等の個人情報の取扱いと管理については、適正に行っており、また、保育に関わる公文書についても適切に管理している。</p> <p>3 教職員の勤務時間やサービスなどについては、就業規則の定めに沿って適正に対処している。</p>		<p>就業規則に関する法令等の順守については、社会の変化に沿った適切な取り扱いに努め、働きやすい職場環境づくりを進めていく。</p>
研修(資質向上の取組)	園内外における研修については、教職員が積極的に参加し、能力・資質の向上に努められるよう環境を整えている。	A	<p>研修受講の期間や時間に幅のあるものが増えているため、それぞれのタイミングに合わせて参加することができた。次年度は学校法人移管により、学園内の研修参加が予定される。職員間の交流も含め、いろいろな園の環境を知る機会となればと思う。</p>
教育目標・学校評価	<p>1 教育目標を設定するとともに、全教職員による自己評価を実施し、次年度の教育活動の参考としている。</p> <p>2 園に対する保護者からの意見・要望については、適時実施し、可能なものから順次取り入れるなどしている。</p>	A-	<p>教職員による自己評価については、毎年年度末に実施、掲示板にて公表している。ホームページ上にも公表した。</p> <p>認定こども園となる4月以降は、開園時間も長くなるため、家庭との連携がさらに必要となる。</p> <p>長時間保育の子どもたちへの対応など、人的配置はもちろん、保育内容を充実させながら対応していきたい。</p>
情報提供	<p>1 園児等の個人情報については、適切、かつ慎重に取り扱っている。</p> <p>2 園だよりやホームページ、更には保護者との懇談などの機会を活用し、教育活動などの情報提供に努めている。</p>	A-	<p>個人情報については、園としての情報漏洩がないよう、また個人の意見に即して、慎重に配慮して対応している。</p> <p>インスタグラムでは、日常の様子も配信するように心がけ、普段の生活の積み重ねの大切さを感じていただけたのは良かった。まだまだ、園の魅力を発信できる手段はあると思うので、次年度はさらに進めていきたい。</p>
保護者・地域住民との	1 PTAとの懇談やクラスごとの交流などを通じ、保護	A-	4月に懇談会を行うことができた。年度末の実施も今後検討する。父母の会主催でお正月会

連携	者と連携を図り、園の適正な運営に努めている。  2 地域の文化や伝統に触れる機会を大切にしている。		の品物づくり、保護者の保育参加もあり、次年度も協力いただけたらと思う。近隣の美術館訪問や商店での買い物など地域と交流できたのも良かった。
子育て支援	園児の心身の健康と発達の状況などについて、保護者と共通理解を得るように努めるとともに家庭や専門機関と連携を図り適切な指導を図っている。 また、保護者の子育てへの不安、育児のニーズを理解しようと努めている。	A-	園児一人ひとりの個性と自立心を大切にしながら、保護者と連携を図りながら取り組んでいる。保護者の思いを傾聴することを心掛け、子育ての悩みに寄り添っていけるように、保育者の学びが必要であると感じている。
預かり保育	保護者の実情やニーズに応じ、家庭と連携を図りながら実施している。	A	預かり保育の利用者は年々増加傾向にあり、特に低年齢児の利用が増えている。職員の配置や長期休みの運営に工夫が必要である。開園時間も長くなるため、長時間保育への配慮や、安心安全な環境づくりに努める。
教育環境整備	園児にとって安全でふさわしい施設・設備を整えるよう環境の整備に努力している。 また、主体的な活動を促すとともに季節や周囲の自然などを生かした環境に配慮している。	A	園児にとって何よりも安全な教育環境となるよう園庭管理、遊具の配置や点検に努めている。園庭の畑に昨年よりも種類の多い種をまき、収穫を楽しみ、クッキング保育も行うことができた。食育に関しては、衛生面に配慮しながら、次年度はさらに充実していきたい。 親子海遠足、お泊り保育の再開が叶い、経験を積み重ねることができた。 気候の変動による夏の猛暑が深刻となった。保育室にエアコン設置をし、猛暑による休園は避けることができた。子どもたちの命を守る新たな配慮が必要になったことを実感している。

#### 4 総合評価

達成状況	計画に対する評価と課題に対する今後の改善方針など
A-	感染症の制約が緩和され、コロナ禍以前の保育を取り戻しながら進めた1年でした。親子遠足、お泊り会の実施など、結果的にも経験による充実感が高かったと思いま

す。地域の中で育つ園として教職員間で考えを出し合い、地域の環境や、保護者の保育参加、食育など、小さなことでも子どもたちの充実した保育のために出来る限りのことを積み重ねることができました。

次年度は学校法人の移管、認定こども園化により、変更点や整備点が出てくると思います。研修による学びを充実させながら、教職員にとって働きやすい職場となるよう配慮していきます。

引き続き、カトリック園としての心の教育を基盤に、健康で安全な園生活が送れるよう教職員一同力を尽くしてまいります。

## 5 学校関係者からの助言

保護者アンケートでは、おおむね肯定的な意見をいただき、小樽藤幼稚園の保育が理解されているように思います。

自己評価の結果も良く、これからも教職員の意識が高まることを期待します。

安全管理の項目がAで良かったと思います。次年度はこども園への移行で、避難訓練も月1回の実施となり、子どもたち自らの危機管理を高めるためにも訓練の機会が増えることは望ましいと思います。

2023年の過酷な夏を乗り切るために、保育室にエアコンが設置されたのは良かったです。北海道でも子どもたちの命を守るために、エアコン設置は必要なことになりました。

しかし、職員室には設置はされているのか、気になるところです。暑さ対策をしなければ、先生たちの環境に悪影響を及ぼすこととなります。職員室のエアコン設置にも積極的に取り組んで欲しいと思います。